

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

— **山形県を訪問しました！** — 2021年10月、山形県に訪問し、自治体や国際交流協会、多文化共生に関わる団体などを取材しました。山形県の外国人人口の割合は0.73%。全国的に高くはありませんが、むしろ共生の意識が醸成されている印象を持ちました。1980年代から県として外国人配偶者受け入れ政策が取られ、家庭の中に外国人を迎えたことや、県内NGOの先進的な取り組みも主要因の一つかもしれません。現在は技能実習生が増加しているようですが、外国人当事者が始めた取組みや、地域住民が開始した国際交流の受け皿として国際交流協会が設立されるケースなど、訪問した日本海側では特色ある活動が見られました。今号では、その取材先から3カ所をご紹介します。

認定NPO法人 IVY (アイビー) (山形県山形市)

◆山形から世界と地域の課題解決へ ～国際協力NGO・IVYの先進的な在住外国人支援活動

IVYの元理事で外国人支援事業担当の西上紀江子さんにIVYの在住外国人支援事業を中心にお話を伺いました。

IVYは精神科医の桑山紀彦氏等の呼びかけで山形県の有志がタイ国境カンボジア難民キャンプにスタディーツアーに行ったことがきっかけで、1991年12月に設立された国際協力NGOです。カンボジア、フィリピンなど5か国で多岐の分野にわたる国際協力を行ってきました。「国際協力NGO」といった場合、開発途上国に向いて支援を行う団体がイメー



2017年の日本語スピーチコンテスト

ジされますが、団体設立の一か月前、日本における医療通訳の先駆けとなる「外国人医療情報センター」を開設したことに象徴されるように、IVYの活動範囲は国の内外を問いません。IVYの理念は「山形という地方を拠点として世界の問題と関わり、世界の全ての人々が人間らしく生きられる社会をめざす」。西上さんから「海外と国内の活動を見ていると、それぞれは別の活動ではなく同一線上だ」とのお話がありました。

1994年には桑山氏が県に掛け合って医療通訳養成講座を開始、1998年には外国人相談窓口を開設しました。県内各地に地域日本語教室を開設し、軌道に乗った後運営を地元の方々に引継ぎました。以前は日本と海外に跨る、日本からフィリピンに帰国した後の精神医療支援や、フィリピンから来日する前の出発前教育なども実施していました。後述の山形県国際交流協会(AIRY)とも緊密に連携を図っており、共催で多言語の通訳養成研修会を実施したり、外国人相談で直接支援が必要なケースをIVYで受けるなどの連携を図っています。90年代後半から県弁護士会に通訳を派遣する一方、在住外国人と支援者が一緒に日本の法律を学ぶために県弁護士会の協力を得て法律勉強会を開催するなどの取り組みを続けています。

近年、国際協力NGOが国内の在住外国人の課題に取り組む動きが増えていますが、IVYはその先駆けと言えます。外国人人口が決して多くない山形県で在住外国人支援が根付いているという印象を受けましたが、こうした先駆的なIVYの取り組みの影響も大きいのではないのでしょうか。

IVYのウェブサイトはこちら <https://ivyivy.org/>



～市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

(公財) 山形県国際交流協会 (AIRY) (山形県山形市)

◆ 山形県内の多文化共生や多言語相談窓口の中継点として

国際交流を推進する山形県の中核的民間組織として1991年に設立された山形県国際交流協会 (AIRY) の日野香織さんにお話をうかがいました。

山形県内の複数の国際交流協会に、県内の地域間での連携や情報共有に関して質問すると、どの団体も「AIRYが主催した」会合等で情報共有を図っているという答えが返ってくることから、AIRYが県内の多文化共生や外国人支援の取り組みを結び付ける重要な役割を担っていることがわかります。この取り組みによって、他地域との協働や、他地域の多文化共生に関する情報や取り組みを自分たちの地域に生かすことができているように思います。AIRY自身が多文化共生の講座等を市町村の国際交流協会と連携して開催することもあるそうです。

AIRYの重要な事業の1つである多言語の相談についても伺いました。多言語相談窓口は1993年から実施してきましたが、2019年、山形県外国人総合相談ワンストップセンターがAIRYに開設されました。中国語、ベトナム語などの7言語で、日常生活における悩み事等について相談を受け付けているほか、外国人を雇用しようとする企業からも相談を受け付けています。最近では、通話機能のないスマートフォンしか持たない外国人の方にも利用できるよう、LINEやSNSによる相談も受け付けるようになりました。日野さんは、相談事業について、連携先の確保、また外国人住民の方への相談窓口の周知など課題は少なくないと言います。山形県内の多文化共生や国際交流推進に向けて、AIRYのあるべき姿や果たすべき役割について真剣に思いを巡らせていらっしゃる様子がとても印象的でした。県内の在住外国人との共生の推進、そして県内国際交流協会の中核的組織としての更なる機能強化が期待されます。

山形県国際交流協会のウェブサイトはこちら <https://www.airyamagata.org/>

日本語学習支援ボランティアべにばな会 (山形県酒田市)

◆ 日本語サポーターは日本語を共に学び合う「共同学習者」

活動ダイジェスト104号でご紹介した山形県の酒田市国際交流サロンを訪問し、サロンを拠点に活動する「日本語学習支援ボランティアべにばな会」代表の斎藤さんにお話を伺いました。

べにばな会は、ボランティアの方が「日本語サポーター」として登録し、マンツーマンで学習者と共に互いの文化や日本語を学ぶ「共同学習者」として、日本語学習支援を行っています。日本語サポーターには交通費が支給される以外は無償の活動であるため、学習者との交流や学びあいを通して楽しく続けられることが重要だと斎藤さんはおっしゃいます。時間的に余裕がある高齢の方が中心になって活動していますが、今年は日本語サポーターの登録会に主婦の方や若い方も参加するなど、年齢の幅も広がってきているようです。日本語サポーターを対象にした研修会をオンラインで実施するなど、コロナ禍でも様々な工夫で活動を継続しています。

主な学習者は以前から通う日本人の配偶者ですが、最近では日本語検定試験を受験したいといった日本語習得に熱心な技能実習生も参加するようになり、若者が増えました。酒田市の縫製業やイカ釣り漁船で働くベトナム人、インドネシア人の技能実習生が、会社に勤められたり口コミで知って訪れるそうです。このように多様になってきた学習者の文化や宗教に配慮して、今年はクリスマス会ではなく、来年の旧正月明けに交流会の開催を予定しています。

酒田市国際交流サロンのウェブサイトはこちら <http://www.city.sakata.lg.jp/bunka/kokusaikouryu/saron/index.html>